

# 高度肥満症治療のご案内

令和6年度、診療報酬改定において、我が国の肥満症、特に高度肥満症治療の薬物治療と手術治療において、ブレースルーがありましたので、その内容のご紹介と、当院の高度肥満症治療の取り組みも改めてご案内いたします。

## 薬物治療のトピックス

現在国が認めている抗肥満薬は3種類だけです。(図1) これまでは中枢神経に作用し食欲を抑制する「サノレックス<sup>®</sup>」だけでしたが、令和5年治療薬として承認されたGLP-1製剤「ウゴービ<sup>®</sup>」は、食欲を抑制し胃の働きを抑える作用があり、半年間に10%以上の強力な体重減少効果があります。また、OTCつまり薬局で手に入る「アライ<sup>®</sup>」は、食事由来の脂肪の吸収を抑制することで、内臓脂肪を減らし減量効果を示しますが、BMI25以上35未満で肥満症関連健康障害(図2)のない、いわゆる肥満症ではなく肥満の方に対象が限られます。

### わが国の肥満症治療薬

【図1】

商品名	ウゴービ	サノレックス	アライ
どこで?	病院	病院	薬局
どんな人?	(高度)肥満症	高度肥満症	内臓脂肪多
健康障害は?	必要	必要	不要
肥満の判定	BMI (27)35以上	BMI 35以上	腹囲 男85cm 女90cm

【図2】



## 肥満外科治療の保険診療の緩和

令和6年度の診療報酬改定で、高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の手術適応の患者要件が緩和されました。特に肥満関連併存疾患に、これまでの糖尿病、高血圧、脂質異常、睡眠時無呼吸症候群を加え、脂肪肝が加わり手術の対象が広がりました。さらに、BMI32以上34.9未満の患者に対しても、肥満関連併存疾患に脂肪肝が加わったことにより、手術希望者が保険で手術を受けられるチャンスが増えました。

### 【当院の取り組みと実績】

JCHO滋賀病院では、昨年2月、肥満症治療センターを立ち上げ、多職種によるチーム医療で、特にBMI35以上の高度肥満症患者さんを対象に、食事、運動、認知行動、薬物、手術療法による集学的治療を提供させていただいています。また、月に1度(第3水曜日15時~)外来通院されている患者さんを対象に患者会を開催しています。患者会は、患者さん同士、あるいは患者さんと肥満症治療チームメンバーとの交流を目的に開始し、お陰様で、肥満外科手術の前後の不安の軽減や喜びの共有などを含め、肥満スティグマの解消に役立っていることが実感され、患者さんはもちろん職員にも好評です。高度肥満症でお困りの患者さんがおられましたら、当院の減量代謝改善外科へご紹介下さい。ご紹介お問い合わせは、下記地域医療連携室へお願いします。



地域医療連携室 TEL : 077-531-2057 (直通) FAX : 077-534-8419